

明保中学校はこれまで、「生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす学校づくり」を軸に、教育活動を積み重ねてきました。社会や地域の在り方が大きく変化する中、学校に求められる役割もまた広がりや深まりを見せています。本方針は、これまでの取組を基盤としつつ、これからの時代を生きる生徒に必要な力を育むための方向性を示すものです。教職員・保護者・地域が共に歩む指針として共有していきます。

1 学校経営の基本理念

本校は、校訓「考える学校」のもと、教育目標である「すすんで学び 心身ともに健康で 思いやりのある人になる」を育成の根幹に据え、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす学校づくりを進める。変化の激しい社会において、自ら課題を見だし、他者と協働しながら解決に向かう力を育成するとともに、地域とともに歩む学校として信頼される教育活動を展開する。

2 令和8年度 学校経営の基本方針

- (1) 生徒が安心して学び、成長を実感できる学校づくり
 - ・全ての生徒が心理的・身体的に安全であると感じ、毎日の学校生活の中で自分の成長を実感できる教育環境を整える。
 - ・生徒理解に基づく丁寧な指導と支援を通して、自己肯定感と自己有用感の育成を図る。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善
 - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、生徒が自ら考え、表現し、学びを深める授業づくりを推進する。
 - ・校内研究を核とし、ICTを効果的に活用した授業改善を継続する。
- (3) 心身の健康と豊かな人間関係を育む教育の推進
 - ・教育活動全体を通して、規範意識と他者を思いやる心を育成する。行事や集団活動を大切に、仲間と協力して目標を達成する経験を通して、社会性とたくましさを養う。
- (4) 地域と連携・協働する学校経営の推進
 - ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会を中心に、保護者・地域との連携を一層深める。
 - ・地域の人材や資源を生かした教育活動を通して、生徒の学びを広げ、地域に開かれた学校づくりを進める。

3 令和8年度 重点目標と具体的取組

- 重点1 安心・安全で居心地のよい学校づくり
 - 【目標】全ての生徒が自分の居場所があると感じられる学校風土を醸成する。
 - 【主な取組】
 - ・教育相談体制の充実と関係機関との連携
 - ・いじめ・不登校の未然防止と早期対応の徹底
 - ・防災・安全教育の計画的な実施
- 重点2 自ら考え、行動する生徒の育成
 - 【目標】課題を主体的に捉え、解決に向けて粘り強く取り組む力を育成する。
 - 【主な取組】
 - ・探究的な学習活動の充実と発表の機会の確保
 - ・思考の過程を大切にした授業構成と評価の工夫
 - ・ICTを活用した思考の可視化と学びの振り返り
- 重点3 健やかな心身と豊かな人間関係の育成
 - 【目標】健康でたくましく生活する力と、他者と協働する力を育成する。
 - 【主な取組】
 - ・体力向上に向けた日常的な取組の推進
 - ・学校行事・体験活動の充実
 - ・生徒会活動・学級活動を通じた自治的活動の推進

○重点4 地域とともにある学校づくり

【目標】

- ・地域との協働を通して、生徒の社会性と郷土への理解を深める。

【主な取組】

- ・学校運営協議会の活性化と熟議の充実
- ・地域学校協働活動への生徒参加の推進
- ・地域行事やボランティア活動への参画

4 学校施設の有効活用

学校施設を、生徒の学びと成長を支える教育環境としてだけでなく、地域とつながる拠点として有効に活用する。学習形態の多様化に対応した環境整備を進めるとともに、生徒の居場所づくりや地域協働活動に資する活用を推進する。

5 教職員組織の活性化と人材育成

◇教職員の行動指針（5 J「人権・迅速・柔軟・授業・情熱」）を大切にした組織を目指す。

◇教職員一人一人が専門性と協働性を発揮できる組織づくりを進める。

◇OJTと校内研修を充実させ、教職員が学び続ける学校文化を醸成するとともに、働き方改革を意識した業務改善を進める。

(1)「教育相談、教育支援」の考え方を基本に、生徒の資質・能力を伸ばす指導を行う。

- ・集団の中では、積極的に教員から声をかけ、丁寧な言葉遣いを心がける（存在を認める）
- ・困ったときに一緒に考え、助けてあげられる存在になる。（笑顔と共感）
- ・「生徒の声」を大切にされた対応を行う。（寄り添い傾聴する）
- ・生徒に分かるように伝える。（聞きやすく話す）
- ・生徒の「学びたい」「知りたい」「解きたい」という意欲を伸ばす。（教材の工夫やICTの活用）
- ・生徒のポジティブな側面を認める・褒める・称賛する。（可能性を伸ばす）

(2) 保護者、地域住民、学校が同じ歩調で生徒の幸せを考え、行動する。

- ・学校と生徒間のみで物事を考えるのではなく、「保護者、地域住民の思い」を尊重かつ大切にされた対応を心がける。（安心して子どもを送り出せる学校にする）
- ・相手の思いや考えを受け止め、共感と積極的な関わりを通して信頼関係を築く。
- ・相手の不安や苦勞を理解し、会話から安心と信頼へつなげる。

(3)「見えないところこそ真面目に行動する」ことを意識し、生徒の命、学校への信頼を守り抜く。

- ・教育公務員としての自覚と責任ある行動をする。（教職員も一日一善を基本姿勢にする）
- ・互いの言動を点検し合いながらサービス事故を未然に防止する。
- ・奉仕者として社会や人のために尽くす。
- ・人権感覚を磨き、常に学ぶ姿勢を忘れず、謙虚な態度で接する。

(4) 未来を見据えた職務遂行と持続可能な学校運営を目指す。

- ・他校と情報共有しながら、教育効果の向上、最先端技術への挑戦、民間企業との連携、時間や費用のスリム化、職員のライフ・ワーク・バランスの実現に努める。
- ・全職員が平日（授業日）に年2日以上、校務に支障がない範囲で計画的に年休を取得する。
- ・付与された年休の75%以上を取得する。
- ・年休取得を「個人の努力」から「学校の仕組み」へ転換し、組織的に互いを支え合いながら安心して休める環境を整える。

6 評価と改善

学校評価を通して教育活動を客観的に振り返り、その結果を次年度の学校経営に確実に生かす。生徒・保護者・地域からの意見を真摯に受け止め、継続的な改善に努める。